

# やくしまに 暮らして

ネイチャーガイド

大野 睦



## 第十五章

## スポーツと観光



## サイクリング

東日本大震災発生後、全国でサイクリングをする人が増えたというが、決して新しい競技ではなく、古くから自転車で風を切り、そのスピードで景色を楽しむ人は多い。屋久島では特に春休み期間中には学生を中心に自転車で屋久島を訪れ、島を楽しむ姿を見かける。しかしながら、屋久島にはサイクリングロードがなく、また歩道がない地域も多いため、環境としてはまだまだ不十分にも見受けられる。それでも世界自然遺産登録地を走り抜ける屋久島独自のコースは屋久島の魅力を登山やトレッキングといったこれまでの観光からまた違った魅力を感じてもらえるものとして 2011 年よりサイクリング大会が行われるようになった。

屋久島は一周道路が 100km ほどあり、制限時間を 11 時間としての観光オフシーズンに大会が行われているが、今年は 4 回目となり、大会の参加者もリピーターが増えているようだ。ちなみに、屋久島を一周するという事は屋久島で育つ子供たちにとって、特に男の子が小学高学年のころにチャレンジするひとつのハードルとなっている。一周したことがある、というのは周りから一目置かれる存在になるようで、最近では単独でチャレンジする子供を見かけることはないが、集落毎に大人たちがサポートをして、みんなでチャレンジする行事となっているところもある。

## オープンウォータースイミング

屋久島におけるマリンスポーツといえば、他の南国離島でも見られるように、ダイビングやシーカヤックなどが中心である。これらは登山やトレッキングと合わせて夏を中心に観光の一部として楽しめることが多い。そんな中、2012年にオープンウォータースイミング大会プレ大会が行われ、オ

リンピック金メダリストをゲストとして屋久島の子供たちに講演や、水泳の指導を行い、大会では2.5km、5km、10kmの本格的な競技の他、500m集団泳などを通じて屋久島の子供たちの水泳への興味を深めるなどしている。この大会は夏休みに入る前の週末を利用し、全国から参加者が集う。



## トレイルランニング

2014年、新たに始まった競技がトレイルランニング大会。屋久島では殆どのトレイルが国有林内の歩道として管理されている他、屋久島独自の深くて険しい森であること、主要なルートでは多くの登山者がいることなど、トレイルランニング大会の導入については、多くの問題点があった。そこで観光としてあまり利用されていないトレイルと国立公園内である永田いなか浜を含め、新たな屋久島の魅力を楽しめるコース



を作り、初めての屋久島でのトレイルランニング大会が行われた。

## 新しい観光

5年前の屋久島にはなかったこれらの大会は、自然を楽しむ新たな視点から屋久島の魅力を発信しようとするもの、またゴールデンウィークや夏休みに集中している観光客の分散化、そして、それぞれの競技での屋久島の人々の競技人口の増加などがその目的とされている。

また、これらの大会の開催にあたり、観光従事者だけでなく、地元漁協や婦人会など地域の団体が観光に直接携わる機会が増えている。そうしたことにより、参加者は屋久島の人々と触れる機会が増える。これは現在の一般的な観光で屋久島を訪れる人々とはまた違う点でもある。

それぞれの季節の屋久島の魅力。それぞ

れの競技を通して見る屋久島の魅力。いくつもの視点から見る屋久島の魅力はこれからの屋久島の観光の多様化において重要な課題でもあるが、その魅力を感じた人が増えることにより、屋久島が世界自然遺産として後世に守り伝えてゆくための大きな意義を持つことになってゆくのかかもしれない。

大野 睦 BLOG やくしまに暮らして  
<http://mutsumi-ohno.seesaa.net/>